

# 令和6年度 世田谷区立小学校長会

## I 運営組織

会 長	児島 信郎 (中町小)			
副会長	依田 哲治 (玉川小)	廣石 雄司 (烏山小)	栗林 大輔 (明正小)	野々村 剛 (希望丘小)
幹事長	小田 正弥 (尾山台小)			
幹 事	村田 奈緒美 (三宿小)	諸角 哲男 (代沢小)	風間 淑江 (旭小)	東城 良尚 (桜丘小)
	三浦 健仁 (北上沢小)	石川 淳 (千歳小)	日高 玲子 (瀬田小)	伊藤 修久 (玉堤小)

## II 基本方針

### 「人を育て つながる 校長会」

社会状況の変化は、速度をあげて進んでいる。学校には、ICT 機器の活用と情報教育、特別支援教育の充実に声が高まっており、授業改善の方向性として「個別最適な学習」「協働的な学習」が求められている。世田谷区では、「キャリア未来デザイン教育」を掲げ、「探究的な学び」の学習過程を中心にして教育改革を進めている。一方、学校現場ではこれらの課題や改革に向けて力を尽くしているが、さまざまな対応に力がそがれ、若手教員の育成等が追いついていない現状がある。こういうときだからこそ、学び舎やブロック等の学校の垣根を超え、共に考え支えあいながら人材育成に取り組むことが大切である。

小学校長会では、教育研究会、学び舎等で校長同士がつながり、自校の教育の充実に努めてきた。今後は、若手教員をはじめそれぞれの学校で力をつけさせたい教員について、連携し育成していく要となる校長会でありたい。校長会の一人ひとりが元気に集い、情報交換し教員の育成に力を注ぐことが、自校はもちろん世田谷区の教育の向上につながると確信している。

- |                             |                 |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 自ら学び、校長同士がつながり、高め合う       | 4 教育委員会と連携・協働する |
| 2 副校長を支え、教職員を育て、共に高め合う      | 5 地域と連携・協働する    |
| 3 中学校と連携し、幼稚園・保育園とつながり、高め合う | 6 PTAと連携・協働する   |

## III 活動方針

世田谷区立小学校長会は、常に小学校教育発展のために着実な研究と実践を積み重ねるとともに、教育諸条件の改善に努め今日に至っている。公立小・中学校全校が、地域運営学校として世田谷区教育要領に基づき、世田谷区の子どもたちの実態に応じた義務教育9年間を見通した質の高い教育の実践を進めてきた。

近年を振り返ると、2019年12月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大、2020年3月からの臨時休業に始まり、2020年度・2021年度の2年間の学校教育は、区のガイドラインに基づく様々な制限の中で、各学校が保護者・地域、児童の実態を考慮しながら教育活動を進めた。昨年2023年5月から新型コロナウイルス感染症の扱いが五類になり、この4年間で変えたこと、中止していたこと、延期していたこと等を整理し、新たな教育活動の充実に向けて進めてきた。学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」をコロナ禍で実現することの難しさも実感しつつ進めたこと、「せたがや探究的な学び」を推進しながら授業改善を進めたことなど、その間の成果も大きい。一人一台のタブレットによる「GIGA スクール」の整備、タブレットを有効活用した学習活動も大きく進んだ。しかしながら、確かな学力の定着、豊かな人間性の育成、いじめ・不登校等への対応、特別支援教育、「安全・安心」な学校づくり等、学校経営上の課題は山積みしており、その解決が求められる。

今年度からいよいよ第2次世田谷区教育ビジョンがスタートする。その柱でもある「キャリア・未来デザイン教育」の具現化に向けて、小学校長会と教育委員会とがそれぞれの立場を理解し合い、連携・協働を一層進めていく必要がある。また、共に未来の子どもたちの社会を見据えて、学校教育に大切なもの、変えるものと変えないものを考え、次への指針を見出していくことが大切である。

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| 1 組織の充実・強化   | 5 教職員の資質・指導力の向上・開発 |
| 2 教育課程の研究・実践 | 6 教育諸条件の整備・充実      |
| 3 学校経営の改善・充実 | 7 世田谷区教育委員会及び関係諸機関 |
| 4 健全育成の充実・推進 | 8 教職員の処遇の改善        |